

平成30年度 事業報告

(グループホーム 恵の家)

1) 事業所運営の理念・基本方針

〈基本理念〉「一人ひとりに寄り添う介護に努めます」

【考察】

- ・年 6 回の入居者懇談会にてご意見やご要望をお聞きし、食事メニューやレクリエーションへ反映することができた。
- ・ご家族様に対して、毎月の「恵の家のお知らせ」を通じ、居室担当より入居者様の日常のご様子や訪問診療の内容をお伝えすると共に、体調不良時や何かあった際は都度、電話にてご連絡をすることで、信頼関係の構築を図ることができたと考える。
- ・恵の家のお知らせを従来の書式から変更し、入居者様の日常の様子を写真で掲載するようになった。ご家族様からは、好評のお言葉を頂いている。
- ・前年度に言葉の選択を間違えて誤解を生んだケースがあったことを踏まえ、新人職員だけでなく、全職員が言葉遣いや言い回しに留意して、入居者様とご家族の対応ができるよう「接遇」の研修を実施した。しかし改善と評価するには、足りていない部分もあるので、次年度の課題として研修内容の見直しを図る必要があると考える。
- ・理念を具体的に実践できるよう、「標語」として職員全員が順番に考え、事務所に掲示することで、意識が高まり理念を共有することに効果があったと考える。今後も継続していく。

2) 管理者の事業に対する考え方

【考察】

- ・社会福祉法人としての地域貢献を考え、活動できたと考える。
具体的には、自治会や運営推進会議を活用し、グループホームの役割やいつでも相談を受ける旨を発信することで、地域包括支援センターからの相談の数も増えた。
- ・稼働率 100%を目標に努めていたものの、年間稼働率 98%という結果であった。
具体的な考察は、「稼働率向上計画」に記載する。
- ・研修年間計画に沿って、月 1 回以上の研修を実施することができた。ホームの現状を考えたながら、必要な外部の研修参加や内部研修の内容を検討、実施していくこととする。

3) サービス提供体制（基本報酬・加算）

【考察】

- ・職員の退職、入職で基準を満たすことができず、サービス提供加算Ⅲの申請を見送ることとなった。次年度(令和元年度)にて申請済である。

4) 稼働率向上計画

【考察】

- ・入居者様が退居されてから次の入居までの空床期間を 1 日でも短くするために、ご家族の都合もあるので調整の難しさはあるが、スムーズに対応できるよう関係機関との連絡調整を細かくスピード感を持ち行っていく。
- ・見学や相談の希望があった際は、迅速かつ丁寧に対応し、急な退居にも対応できるよう、申し込み待機の状態を維持していく。
- ・100%に足りない原因の約 7 割が「入院」と分析ができているので、いずみ台病院との医療連携の強化により、入院するケースを減らし数字に反映させていく。またご逝去等の理由で急な退居になってしまうケースがあったが、入居申し込み待機の方を確保することで、出来得る限りの短い空床期間で調整を行った。引き続き、「空床期間を 1 日でも短くする」という意識を強く持ち、稼働率を上げる努力をしていく。

5) 職員配置体制及び人材育成指導

【考察】

- ・セルフチェック表を活用し、面談にて職員個々の目標を明確にすることで、知識や技術の習得への意欲が向上した。職員の中には、今まで資格に興味がなかった方も、実務者研修を意欲的に受講しており、30 年度介護福祉士試験に 1 名、合格となった。
- ・計画作成担当者が 3 月末に退職となったが、計画的に研修を受講し、資格を取得していたので、スムーズに変更申請することができた。

6) 各種委員会・研修体制（年間計画は別紙参照）

【考察】

- ・月1回以上のユニット会議、内部研修年間計画に沿った研修、所属する関係団体が主催する外部研修へ計画通り参加し、内部研修を実施することができた。
- ・今年度より必須となった「身体拘束廃止 基準型」に則った委員会、及び研修を計画通り、実施した。

7) 入居者（利用者）のニーズ・要望への対応

【考察】

- ・居室担当の役割として、毎月の「恵の家のお知らせ」の記入、「ケアプラン作成事前資料」の作成、「訪問診療記録」の記入等を通して、入居者様の理解を深め、要望や心の声を聴きだし、レクリエーションやケアに活かすことができたと考える。

8) 入居者（利用者）の苦情受付体制及び対応

【考察】

- ・苦情受付担当者と苦情解決責任者を提示し、「ご意見箱」を設置することで、いつでも申し出ができる環境を整えた。今年度は、1件の苦情の申し出があったが、苦情対応マニュアルに沿い、迅速に対応し、ご了承いただいた。

9) 事故防止（再発予防）計画

【考察】

- ・同じ研修を定期的に、繰り返し実施することで、事故に対する意識向上を図ったが、薬に関する事故が減ってはいるものの、ゼロにはならない。同じ職員が同じような事故を頻繁に起こすケースが発生しているので、職員の育成と対策の再検討が課題である。

10) 施設設備の保守・管理

【考察】

- ・定期的に点検を実施し、設備の不備や不具合を早期に発見し早急な修繕に努めた。

1 1) 個人情報保護計画

【考察】

・個人情報保護に関する外部研修へ参加し、研修内容を内部研修として実施し、共有することで個人情報保護法の理解を深めることができたと考える。

1 2) 関係団体・地域団体との連携

【考察】

・横浜市や区役所、所属する認知症グループホーム連絡会、グループホーム協議会、地域密着型サービス事業所連絡会へ積極的に参加し、情報交換や交流を深めることができた。
・年6回の運営推進会議を実施し、情報を収集すると共に、当グループホームが力を入れている所や大切にしていることを発信することができた。

1 3) 社会資源としての役割

【考察】

・自治会の定例会や運営推進会議にて、グループホームとは、どういう施設であるかを説明し、ご家族や知り合いの方が認知症で悩みごとや困りごと等がある場合は、いつでも相談にのり、話を伺って一緒に考えていく旨を発信することができた。今後も実践を通じて積み上げている認知症の方の理解や支援の方法を地域に向けて活かしていく。
また地域住民の方が、直接ホームに来られ、ご家族やご自身のことを相談されるケースが多くなった。引き続き、来所しやすい環境や雰囲気作りに努め、社会福祉法人の事業所として、地域密着型事業所として地域貢献に尽力していく。

1 4) 実習生・ボランティア受入、育成

【考察】

・月1回以上、定期的にボランティアを導入することができた。今後も入居者様が喜ぶレクリエーションの意味だけに留まらず、外部の視点を取り入れることで、風通しの良い職場作りに活かしていく。

1 5) 防災・防犯対策

【考察】

- ・消防計画に基づき、夜間想定 of 訓練を年 2 回実施した。
- ・法人内の隣接施設との合同防災訓練は、夜間想定 of 訓練を優先したため実施しなかったが、協力体制は継続し、相互に自動通報装置の二次登録先としている。